

分野（ 2 ） 気管支ぜん息・COPD患者の健康回復に関する調査研究

研究課題名：気管支ぜん息患者の効果的な長期管理支援のための患者アセスメント手法と評価に応じた患者教育プログラム

申請課題名：気管支ぜん息患者の効果的な長期管理支援のための患者アセスメント手法と評価に応じた患者教育プログラム

調査研究代表者氏名：大矢 幸弘

評価コメント

- ・一般向けのテイラー化教育プログラムの完成を期待する。
- ・タッチパネル方式の個別化したプログラムのプリントアウトは有用性が大きいように思われる。Selfefficacy尺度の開発も有効であった。
- ・タッチパネル式コンピュータによるテイラー化教育プログラムは、現在は専門医療機関を中心に行われているので優れた効果が得られている。今後、ソフト3事業の中で活用されて効果を発揮するためには、効率性の工夫と教育指導スタッフの確保が必要になるので、その点を踏まえる必要がある。
- ・計画は順調に進んでいるので、症例数を増やして一般化を進めていただきたい。
- ・ソフト3事業で活用することを前提に実用化を図って欲しい。
- ・平成23年度までに開発したプログラムの効果を検討し、テイラー化した喘息の教育プログラムの開発で従来の教育方法を上回る効果を目指している。現在、介入群44名と非介入群47名を組み入れ、それを検討対象としているが、現在のところ、吸入率、服薬率に有意差はない。しかし、CASES得点、知識得点は介入、統制群とも得点が上昇すること、HLCが介入群で改善した。プログラムの評価は行っているが、JPACの点数の改善について報告を行ってほしい。
- ・患者教育プログラムの有効性をランダム化非盲検並行試験で検証することは重要である。通常のパンフレットや小冊子で患者教育した場合とタッチパネル式プログラムで教育した場合の有効性の差をよく検討し、いかにしたらより有効性の高いプログラムができるか改良を重ねる必要がある。一時的な物珍しさだけで使用するのではなく、永続性のあるものでなければならない。
- ・本年度と来年度については教育介入の長期の効果を判定することが必要である。効果が実証されれば、ネットから患者や家族に提供できるようになるとよい。過去から行っている研究であり論文化が急がれる。